

2、情緒的な面と社会性について

大ぜいの集団生活の中でぶつかり合つて身についた社会性には私共は実に喜びを感じ合っている。ことに一人一人自律的な生活態度が身についたと思われるのは園外保育の効果と思う。ことに園内ではつかみ得ない性格の表われを観察したり、又指導のチャンスをもつたせいか無理なく社会性の円満な発達をした者が多い。

3、両親の教育的態度（省略）

（文京第一幼稚園長）

環境設定について

孝 久 徳

慣れるという事は大変必要でありよい事でありますが、又反面こわい事であると思えます。始め非常に気になった事でも、慣れて来るとそれ程気にならない、即ち其の事にだきようしてしまつて神経が麻痺してしまうのだと思います。私達は時々自分のしている事を一歩退いて、外から眺めて見る必要があると思ひます。しらすしらすにだ勢になつていゝのではないか、人には気になるのに自分が慣れて気にならない事がありわしいか、と静かに反省する機会を持ちたいと思ひます。

幼稚園には入つて行つて、先ず何となく感じる其の園の空気が言ひがあります。明るく楽し相に感じる所、がさがさと落つかない感じの所、冷い感じを受ける所等あると思ひます。私共の園でも参観に見えられた方から「のびのびとしていて元気がよいですね」とのお言葉を伺うと私はハツとします。其の中の何分の一かに落つかない騒がしいという分子がふくまれているのではないかしら……という事を、

環境の中でもち論、一番大切な事は人的環

境でしょう、いくら設備が申し分なくても、子供に毎日直接ぶつかつていく先生、お友達から受ける影響と言ひものは一番大きいと思ひます。其の園の先生達が一つになつて協力している姿、努力している様子程、尊いものはないと思ひます。一人一人が自分の園として幼稚園を愛し、幼児を愛しているのではなくて何が出来ましよう。自分の組に執着をもつて競争し合つたり、感情的にもつれ合つたりしていれば、そこから出る空気は非常に冷たいものを感じるでしょう。先生達が絶えず創造し研究している事、個人的にも何か心のうるほいをもつていゝ事は、園全体としても発らつとした中に或落つきをもつていて、子供も非常に安心した気持で飛込んで来る事が出来ると思ひます。

それと同時に物的の環境も大きい力がある事は言うまでもありません。公立幼稚園の一つの悩みとして、小学校或は中学校等とも一つ屋根の下にある為にもいつも騒音の中にある事です。子供達も四月に来た頃はこの騒音にずい分疲労した事でしよう。それが段

々日があつたつて慣れてそれ程疲労しなくなつたと同時に、気にならなくなつてしまふ。自分も必要以上に騒ぐ。これはこわい事だと思ひます。幼稚園と言へば、子供が一ぱいいていつもごちゃごちゃと賑やかな所と言ふ觀念をもたせていらないでしようが町で騒音防止がやかましく言われている様に、幼稚園の騒音防止も提唱したいと思ひます。いつか学校の大半が校外教授だつた時、子供が「先生静かだね」と言つた言葉をきいて、本当に反省させられました。「ああやっぱり子供だつて静かなのは好きなんだな」と

必要以上に大きな声で騒がない事、或時は幼稚園全体が静かに落つた時をもつ事、これは此の四月から特に心がけて来た事です。雨で外に出られない時に、監視窓を、其の日のプランをかえて行く先生の心づかいがあつてほしいものです。

環境を整える点で特に注意した点は、園内の掲示です。先ず玄関をはいつた時に、ああ今日も○○ちゃんと遊ぼう○○をし様と楽しい氣持を起させる様に、玄関にはいつも協同

製作の大きい絵をはり、花をつける事、或時は運動会の楽しさを、味う様に、或時は、兎や狸の可愛いお月見の様子を作つて掲げると言う様に、四季折々の楽しさを出しました。

廊下にも写真、或は幼児に觀賞させる絵の額をかけ、一月に一度はこれを取かえる様にして、花、金魚鉢等もあしらいました。又お手洗にも忘れずに花をさす様にしました。廊下が長いので、学校の生徒も、園児も走つていくら注意してもなかなか徹底しません。

始めは幼児にボスターを書かせて、台を置いてはり出したりしましたが効果がありませんので、今は花台を二個所において、花がさしてあります。始めは倒されて花瓶が三つもわれました。花瓶がこわれる度に幼児も、困つた表情をして見ていましたが、この二ヶ月は花瓶も割れなくなり、大変よくなつて来た様に感じています。

うるほいを持たせるいみで出来るだけ色々なものを飼育する様に心がけ、各保育室に小鳥を飼いお当番で世話させました、水を取換様として逃したり、卵が生れて皆が楽しい

記録をつけて楽しみにしている中に、猫にとられて、先生も幼児も一緒に泣いたり、色々の事がありました。でもそれ以来子供達も一層注意して、水を取換える時も慎重にやっている様子が見えます。

「朝、皆いらつしやつた時に、組の先生だけでなく、会つた方皆にお早うをしましうね、学校の先生でも、小使のおばさんにも……」と話した翌朝

「先生、僕、小鳥さんにも、お早うしたよ」

「私ね、ペーコにもしたけど、ペーコだまつているの」(ペーコはお猿の名前)

「そう、小鳥さんはピーピーって御挨拶したでしよう」

「ウン」

こんな会話もあつたりして此の頃は朝うがいがすむと、よく「インコお早う」「兎ちゃんのお赤ちゃん、お早う」と言っている声をききます。小鳥の餌の菜っぱがよくなくなるので、小鳥用に、別に空箱に菜っぱもまいたりしました。アンゴラ兎のお赤ちゃんが生れた時

の喜び方は大変なもので、自由画帳にも沢山書いてありました。日に日に生成していく姿を見て、隣の雞小屋の「ひな」の方がその割に大きくならない事を心配したりしていました。

色々の物を育てる気持は本当に尊いと思います。「花を折るな」と言う前に、自分で花を育てさせる事だと思えます。自分で種子をまき、或は球根を埋めさせた花が咲いた時、非常に喜びますが、決してこれをむしり取っては来ません。

絵がよく書けるとか、数がいくつまで数えられる様になったとか、メンタルテストがどうの、と表面的な力を兎角問題にする前に、私達はもともと大事な事を忘れていないでしょうか、子供の心に深く根ざしていくもの、人間としてのうるおい、人間としての性格のもとを作る、事を第一にしないでいつそれが出来るでしょうか。毎日の忙しさにまぎれて根本問題がずれていないか、そんな事をいつも考えさせられます。

(番町幼稚園長)

新設幼稚園七ヶ月を顧みて

豊田いと

○あの日の印象

江戸川河畔のまばらに立ち並ぶ小住宅と、保健所に狹まれ、二方はドブ溝に仕切られた百坪の緑の屋根の園舎と、三百坪の砂地の庭が静かに浮び上っていた。これが私の赴任を予定されている幼稚園であった。見聞を終って帰り道バスの停留所で長い間待つ間に、夕闇が濃くなり街頭の電光が小雨の中にボンヤリ映ずる。三人五人集る人達に混ってモンペ姿の幼児が、おばあさんの微笑を受けながら「カアラアス、ナゼナクノ」の遊戯を表情た

っぷりにおどっていた。聞けば○幼稚園児という事であった。あの時のバス待つ時間の長い停留所の淋しき、幼児の大人びた、表情たっぷりの遊戯が今も尙印象に残る。

○地域をみつめて

五月一日付発令、五月六日開園。廿年間奉職した千代田区にあつて、うかつにも想像だにしなかつた急変した環境の中に立つて最初に浮んだ決意は「地域とじっくり取組んで行こう」という事だつた。園児の生活の場の実態を知ることが何より必要であり、急務であることを強く考えさせられ、日々の保育と並行して職員が全力をあげて家庭の実態調査を初めた。調査の結果は、この土地は代々の農家で今は地主として勢力のある家庭と、
・戦時中工員となり今も工員生活をするもの及び自家小工場を営むもの。
・戦災で他から転入、附近の会社或は小工場に勤務するもの、引揚者等々様々であつて大部分は父母の教育程度も家庭の経済状態も高くない。この家庭環境に育つた子供達は入園と同時にあるがままのあらゆる生活様